

今週の為替相場見通し(2020年12月7日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		103.68 ~ 104.75	104.20	103.50 ~ 105.00
ユーロ	(ドル)		1.1923 ~ 1.2177	1.2121	1.2000 ~ 1.2200
(1ユーロ=)	(円)		124.32 ~ 126.66	126.24	125.00 ~ 127.00
英ポンド	(ドル)		1.3288 ~ 1.3540	1.3431	1.3100 ~ 1.3500
(1英ポンド=)	(円)	*	138.43 ~ 140.71	139.99	137.50 ~ 141.00
豪ドル	(ドル)		0.7339 ~ 0.7449	0.7426	0.7300 ~ 0.7550
(1豪ドル=)	(円)	*	76.58 ~ 77.57	77.37	76.50 ~ 78.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 玉井 美季子

(1) 今週の予想レンジ: 103.50 ~ 105.00 円

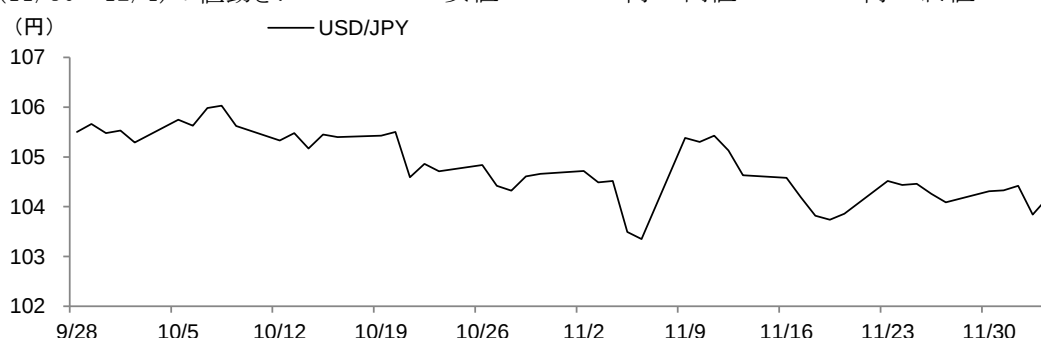
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は上昇するも週後半押し戻される展開。週初30日、104円台前半でオープンしたドル/円は、米長期金利の低下や月末の実需の売りフローに押されて、103円台後半まで下落。その後は新型コロナウイルスのワクチン開発に関するポジティブな報道を受け、ドル/円は104円台前半まで回復したが、戻り売りも散見される中、上値重く推移した。翌1日は、リスク選考ムードが優勢の中、クロス円の上昇に連れて、ドル/円は、104円台後半まで上昇するも、対ユーロでのドル売りが重しとなり、104円台前半まで押し戻された。2日には、ユーロやポンドに対するドル買いが波及したことから、ドル/円は、一時週高値となる104.75円まで上昇。しかしその後は、米経済対策の交渉再開や米株価の下げ幅縮小要因にドル売り優勢となると、ドル/円は、104円台前半まで下落した。3日にかけてもリスク選好のドル売り地合いが継続する中、ドル/円は一時週安値となる103.68円まで下落したが、ドル売り一巡後は104円近辺まで値を戻した。4日は11月米雇用統計において非農業部門雇用者数が市場予想を大きく下回り前回から伸びが鈍化する結果となったが、米追加経済対策への期待が高まり米株・米金利が上昇する中、ドル/円も底堅い動き。104円台を回復し、104円台前半で越えた。

今週のドル/円は上値の重い動きを予想する。新型コロナウイルスのワクチンへの期待や、FRBの緩和姿勢を背景に、ドル安地合いが続いている。特に対ユーロでのドル安は顕著で、足元ユーロドルは2年8か月ぶりの高値圏で推移しており、ドル安を牽引している。今週はECBが注目される。前回のECBにおいて次回の会合での追加緩和が示唆された。市場では追加緩和の実施自体は既に織り込まれており、内容に注目が集まるが、内容が想定ほどハト派でない場合には緩和をしてもむしろユーロ高に繋がる可能性が高いと思っており、ドル安地合いは継続しそうだ。ドル/円についてはドル売り円売りに挟まれ方向感に乏しい動きとなっているが、他通貨でのドル売りに押される形でじりじりと下落しており、ECB後対ユーロでのドル売りが強まる場合には、ドル/円も上値の重い動きとなろう。ただ、このレベルだとECB高官からユーロ高牽制発言が出る可能性には注意したい。また米国での追加経済対策への期待が再び高まっている。米国での新型コロナウイルス感染再拡大を受け追加対策の必要性が増している。合意に近づく場合にはリスクオンのドル安と米金利上昇を受けたドル高が拮抗することとなりそうだ。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/30~12/4)の値動き: 安値 103.68 円 高値 104.75 円 終値 104.20 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

金融市場部 グローバルFIチーム 大庭 泰典

(1) 今週の予想レンジ: 1.2000 ~ 1.2200 125.00 ~ 127.00 円

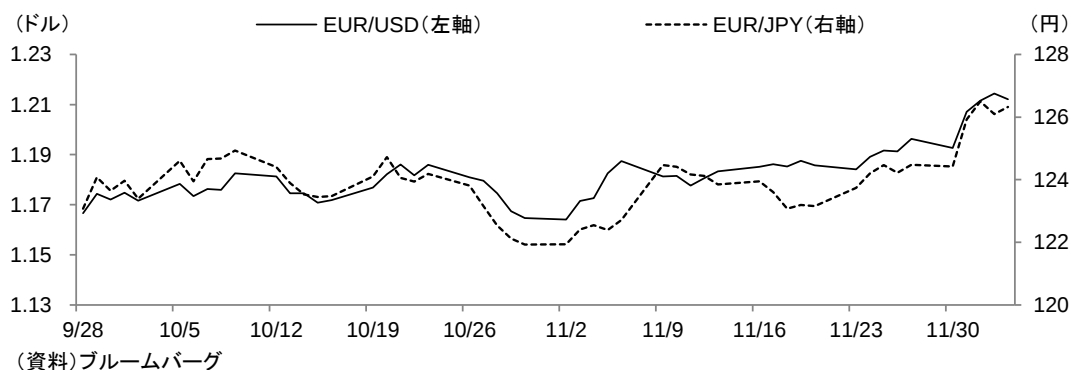
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は、緩和見込の12月ECB政策理事会を翌週に控えているものの、EUR買いの勢い止まらず、直近高値を1.2177まで更新する展開。週初30日、1.19台後半でオープンしたユーロ/ドルは、月末絡みのドル売りの思惑に1.20台まで上昇。9月1日に付けた高値1.2011が意識され、利益確定売りが持ち込まれたことや、EU関係者筋からブレグジットに関してノーディールのプランに着手する可能性が示唆されると、1.19前半まで下落。翌1日は欧州株や米株先物が上げ幅を拡大する動きを受けて、ドル売り流れが強まり、じりじりと上昇。1.2011を上抜けると、ストップロス巻き込みながらユーロ買いが加速し1.2055まで上昇。2日はバルニエEU首席交渉官が「合意なきブレグジットのリスクは健在」、「公平な競争環境と漁業権などの本格的な隔たりが残っている」と述べたことを背景にポンドと共にユーロが売られる場面もあったが、ユーロ買い意欲は根強く、1.211台まで上昇。3日も買いが優勢となり、1.21台半ばまで上昇。その後は18年4月以来の高水準1.2174をつけた。週末の4日は、独10月製造業新規受注が予想以上に改善したことを受けて、一時1.2177まで上昇。NY時間は米11月雇用統計で、非農業部門雇用者数が予想を下回ったことに反応し、ドル買いが強まり、1.2132まで下落。週末前の利益確定売りが一段と強まったことから下落のペースが加速し、1.2121で越週。

今週のユーロ/ドル相場はECB前の週央まで同水準を底堅く推移した後、10日(木)のECB政策理事会後に売られ1.20付近で越週すること予想。今週の注目材料はECB政策理事会であるが、緩和見込の本会に対し、ユーロ高の流れを抑え込む程の結果を期待していないと、まるで市場からのメッセージの様にユーロ買いが進んだ。翌週にFOMCも控えており、前回の議事要旨に量的緩和の見直しを集中的に議論した内容が、ドル売りユーロ買いの展開に拍車をかけた。注目の集まるECBの予想される内容は、PEPPの購入枠拡大(6,000千億ユーロ)で累計1兆9500千億ユーロへ、期間を21年半ばから22年半ばまで1年延長、再投資の期間を22年末から23年末まで1年延長。TLTROの特別金利(-1%)の適用期間を2021年半ばから22年半ばまで1年延長とされる。ユーロ高を抑え込むには弱いとされながらも、緩和が事実となれば、相応の売りもあるのではないかと。Buy the rumor, sell the fact。本来の意味とは逆だが、発表直後は相場の格言通りの動きを考えると考える。また、同日から開始されるEU首脳会議にてブレグジット交渉に対するヘッドラインで、ユーロ、ポンドの売り材料が出ないか警戒する動きが強く、これまでの利益確定売りが相応に出るのではないだろうか。その他重要イベントは7日(月)独10月鉱工業生産、8日(火)独12月ZEW調査、ユーロ圏12月ZEW景気期待指数、ユーロ圏7~9月期GDP(確)、10日・11日EU首脳会議が控えている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/30~12/4)の値動き: (対ドル) 安値 1.1923 高値 1.2177 終値 1.2121
(対円) 安値 124.32 高値 126.66 終値 126.24



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3100 ~ 1.3500 137.50 ~ 141.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル、対円で上昇。対ドルでは、一時、18年5月来の高値となる1.3540まで上伸したものの、対ユーロでは軟調推移を支配的とし、週明け前に反発したものの、週を振り返って小幅下振れに終わった。1日には英とEUの将来関係交渉が最終段階に突入したとの観測が広がった。しかし、前後してポンドは、対ユーロでは軟調推移を続けた。並行して対ドル、対円で見せたポンド堅調は、ドル安の結果であり、円安の結果と言えた。新型コロナウイルス感染症のワクチン開発や、米追加財政支出に関する楽観的な見方が広がったことが、この局面、リスクオンのドル売り、円売りを誘ったとの解説が広く聞かれた。英とEUの将来関係交渉に関しては、引き続き、前向きな情報発信と、悲観的な情報発信が交互に聞かれた。上述、楽観的な観測のあとは、欧州時間2日朝、EU側のバルニエ首席交渉官から「公平な競争環境、漁業権、確実に合意を履行させる仕組みの3大争点は未解決」との発言が聞かれた。その後も、「フランスは、英に過剰な譲歩をすれば通商合意に拒否権を行使すると(バルニエ首席交渉官に対し)警告(2日)」「(通商交渉は)週末の間に合意の見通し(4日)」「英政府報道官、(交渉は)極めて難しい地点にある(4日)」などといった交錯した観測が聞かれた。もともと、こうした観測のいちいちにポンドが反応した様子は読み取れなかった。他に、英固有の要因としては、欧州時間2日昼、英政府が世界に先駆けて米大手製薬会社製ワクチンを認可したことが耳目を集めた。或いは、この報を、英景気早期回復期待に結びつけ、週明けにかけてのポンド上昇要因と読むことはできたかも知れないが、発表直後の反応は明らかなポンド売りだった。

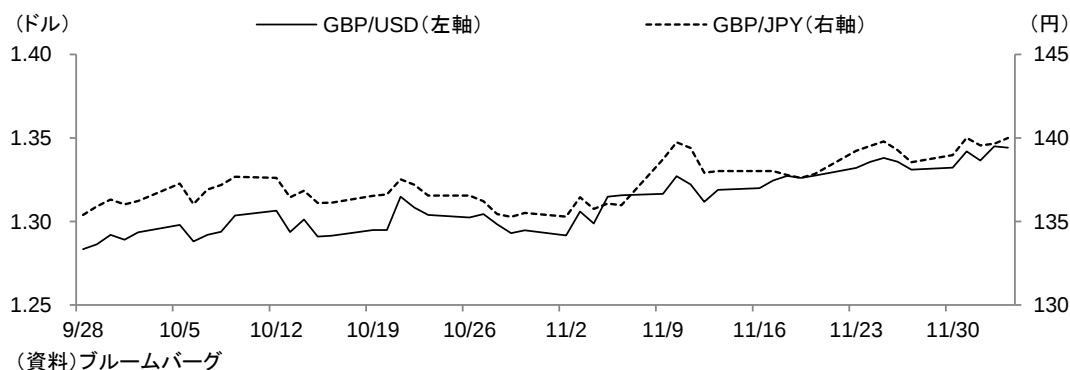
今週の英ポンド相場は、英とEUの将来関係交渉の顛末に大きく左右されることになりそうだが、予想の中心はポンド反落に据える。4日の欧州時間夜に至っても、同交渉に関する思惑は、「この週末の間に合意に至る」との見方と「合意は難しい」との見方にきっぱり割れている。英のEU離脱に関しては、当初から悲観楽観は常に交錯してきたから、今更驚くには値しないが、週明け7日(月)の欧州時間を迎えた段階でも、こうした悲観と楽観の両論併記は果たして可能だろうか? 10日(木)からの欧州理事会(サミット)を控え、事務方も、きっぱりと貿易協定なしの移行期間終了に備えた準備を固める他ないだろう。これまでの交渉の経緯に鑑みて、土壇場での「合意」や尚も交渉を継続させる可能性も除外はできないものの、さすがに、金融市場も、合意なしの可能性を本格的に反映させないわけにはいかないはず。そうなれば、期待と失望の入り混じった現在の状態から、ポンドの下落余地は十分にあると思われる。もうひとつ気掛かりなのは、新型コロナウイルス感染症のワクチン開発/認可を巡る経緯。英製薬会社と英大学が共同開発したワクチンは、先月23日に、治験結果が高い有効性を示したと大々的に報じられたが、その2日後には、「検査結果の報告に齟齬があった」と伝えられた。また、この2日、世界に先駆けて米製ワクチンを英政府が認可したことに対しても、主に国外から、「拙速に過ぎる」「十分なデータが揃っていない」などの批判を浴びた。実際、どれだけ時間を掛けたとしても、完璧なワクチンなど存在するものではないだろうが、想定外の副作用が確認されたり、期待された効用が示せなかったり、最悪の場合薬害のような「事件」にまで発展する可能性を完全に除外することはできないだろう。「世界に先駆けて」という形容が、「功を焦った」との表現に変わる可能性も、ポンドにとっては潜在的な悪材料と言えるのではない。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/30~12/4)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3288 高値 1.3540 終値 1.3431

(対円) 安値 138.43 高値 140.71 終値 139.99



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 0.7300 ~ 0.7550 76.50 ~ 78.00 円

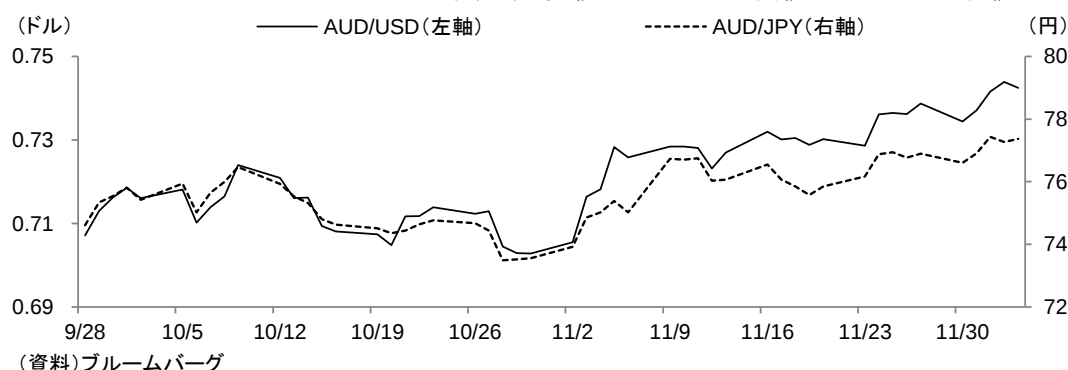
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は週後半にかけて上昇する展開。週初30日、0.73台後半でオープンした豪ドルは序盤に0.74台を付けるも、中国政府高官が豪軍兵士がアフガニスタンの子供にナイフを突きつけているように見える写真を投稿。豪首相が偽造されたものと反発するなど、豪中間の緊張の高まりが意識される中で、更なる上値追いとはならず。米ドルが上昇する動きもあり、豪ドルは終盤に週安値0.7339を付ける展開。翌1日に行われたRBA理事会では、市場予想通り政策金利および3年国債の利回り目標が0.10%に据え置きが決定。また、声明文の内容も特段のサプライズは無く、豪ドル相場は0.73台半ばでの推移に終始。2日、豪3Q GDPは7.9%増となった家計支出等が寄与し、前期比3.3%、前年比-3.8%で共に予想、前回値を上回る結果。豪財務相は「新型コロナ打撃からの経済回復が順調」と述べ、楽観と希望が持てるとした。米ADP民間雇用者数が市場予想を下回り、コロナ禍での雇用拡大ペース減速が示されるとドル売りを背景に豪ドルは0.74台まで上昇。翌3日はリスクオンムードが継続する中で、右肩上がりに続伸し、週高値である0.7449まで上伸。引けにかけては米製薬会社がサプライチェーンの問題でワクチンの今年の出荷量が当初計画の半分になるとの報道が嫌気され、一旦株が上げ幅を縮小するも豪ドルは再び上昇に転じ、0.74台半ばで引けた。4日、序盤はじり安の推移となり0.74台前半まで下落するも、冴えない米雇用統計の結果を受けて、米追加経済対策が議会を通過する可能性が高まるとの思惑から、米株が軒並み最高値を更新。米ドル売りが強まる展開となり、0.74台半ばまで値を戻した。終盤は小反落し0.74台前半で越週している。

今週の豪ドル相場は動意薄の展開を予想する。先週、RBAならびにGDPなどの豪主要経済指標の発表を終え豪州発のイベントは、一旦は消化した格好。今週は、世界的なリスクセンチメントの動向を確認しつつ、豪中の関係悪化に資するヘッドラインに浮沈する展開を想定している。一方で12月も2週目に入り、年の瀬が近づく中でマーケットでは次第に積極的な商いは手控ええられる公算が大きいではと考えている。ヘッドラインなどが出てこなければ、豪ドル相場は0.74台を中心とした動意薄の展開になるのでは。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/30~12/4)の値動き: (対ドル) 安値 0.7339 高値 0.7449 終値 0.7426
(対円) 安値 76.58 高値 77.57 終値 77.37



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。